

「スマイル 100 歳社会」の実現に向けて

— ヘルスケア・ニューフロンティア推進プラン —

【概要版】



平成 30 年 3 月

神奈川県

1 策定のねらい

私たちは、人類がかつて経験したことのない超高齢社会を迎えようとしています。

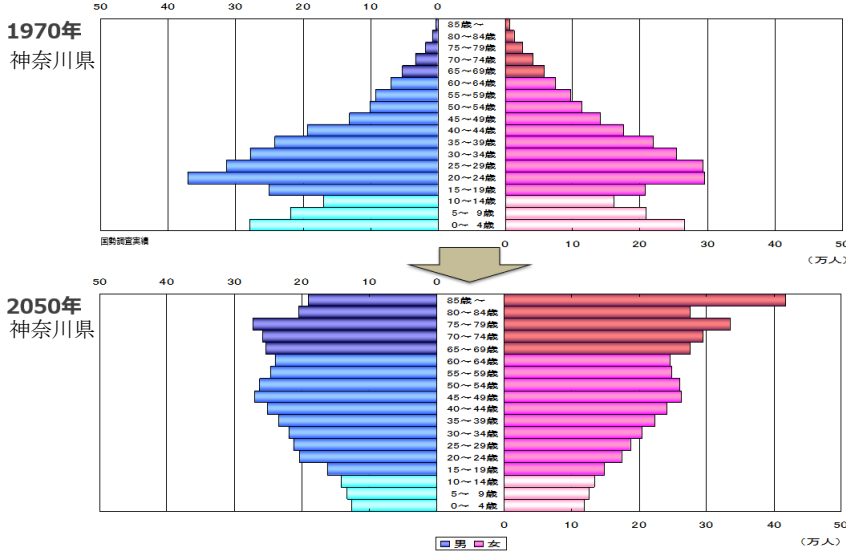
急激な高齢化は、社会システムに大きな影響を及ぼし、社会保障制度など現行の社会システムを継続させることが困難になりつつあります。

そこで、県では、ヘルスケア分野で「最先端医療・最新技術の追求」と「未病の改善」という2つのアプローチを融合させ、持続可能な新しい社会システムを創造していく「ヘルスケア・ニューフロンティア」政策を進めることにしました。

2017年10月の「ME-BYOサミット神奈川2017 in 箱根」では、「ME-BYO 未来 戦略ビジョン」を採択しました。これを受けて、今後、県民の健康寿命を延伸するために、県が具体的にどのような取組みを行い、県民の皆さんとどのように手を携えて進めていくのかなどを、わかりやすく伝えるため、本プランを策定するものです。

超高齢社会の到来

ヘルスケア・ニューフロンティア政策



【参考】

「未病」とは

未病とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。

この定義は、2017年2月に閣議決定された国の「健康・医療戦略」に盛り込まれました。



2 基本的な考え方

本プランでは、2025年の「目指すべき未来社会（スマイル100歳社会）」の実現に向けて、「県民のメリット」や「4つの重点領域（生活習慣、生活機能、認知機能、メンタルヘルス・ストレス）」、「主要目標（2025年）」等を明示するとともに、2020年を中間目標に据えて、その間の具体的な取組内容を整理しました。

神奈川の強みを生かし、イノベーションの力で超高齢社会を乗り越えていくために、ヘルスケアの分野で先進的な取組を進めることで、超高齢社会の課題を解決するとともに、新たな市場・産業の創出を図っていきます。

スマイル100歳社会

すべての世代が元気で自立したライフスタイルを実践し、
100歳になっても健康で生きがいと笑顔あふれる健康長寿社会

3 県民のメリット

県民が次のような暮らしを送り、メリットを感じることができるよう、政策の推進を図っていきます。

ライフステージの転換

高齢者という概念（年齢による区分）が変わり、生涯にわたる学びと社会参加を通じてアクティブな人生を送ることができます。

個人・生活の場が主役に

未病の状態や将来の疾病リスクなどが見える化でき、専門家や行政のサポートのもとで、個人が未病改善に向けたサービス等を主体的に選択しています。

切れ目ないサービスの提供

健康・医療情報等の活用により、生涯を通じて切れ目のない医療・介護・健康づくりサービス等を受けられます。

最先端の医療や技術が身近に

最先端の高度な医療や技術が身近になり、気軽に活用でき、自立した生活機能の確保に役立つことで、健康生活の質の向上につながっています。

生活の利便性の向上

I o T、A I、ロボットなどの技術革新により、人口減少の中で不足する労働力が補われることで、支える世代の負担も軽減され、生活全体の利便性も高まっています。

<スマイル100歳社会における2025年の県民生活のイメージ>

- **小学生の太郎君**は、乳幼児の頃からの健康データが、電子母子手帳を通じて「マイ ME-BYOカルテ」に保管されています。就学してからの健診情報も記録されていて、風邪で小児科に行った時も、アレルギーで耳鼻咽喉科に行った時も、お医者さんがこれまでの健康情報をもとに、丁寧なアドバイスをしてくれました。きちんと健康管理をしていると、学資保険の満期に追加の給付金が受けられる仕組みもできました。
- **45歳で働き盛りの佐藤さん**は、朝食後に洗面所の鏡に表示されるデータを確認するのが日課です。未病指標を活用した様々なセンサーから分析された結果が鏡に表示されます。最近、お酒を飲む機会が増え、メタボや糖尿病になるリスクが高いとの判定が表示されました。以前なら健康診断の結果を放置していましたが、リアルなデータをもとに専門家からアドバイスを受けられ、最適な未病改善サービスを紹介してもらえます。勤務先も健康経営に取り組んでいて、頑張る人ほど応援してくれます。きちんと健康管理していると、将来の生活設計のための経済的な優遇措置も整備されています。
- **75歳の鈴木さん**は、まだまだ現役で働いています。勤めている会社が健康経営を進めていて、早くから未病改善に取り組んだことで、今でも自分の好きな仕事を続けられています。加齢による体力の衰えなどは、AI・ロボットなどのテクノロジーがフォローしてくれます。新しい技術が導入され、一人あたりの生産性も高いため、余暇の活動も充実しています。生涯学習や地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

4 重点領域

健康寿命の延伸に向けて重要であり、また、県民にとって身近な課題である生活習慣、生活機能、認知機能、メンタルヘルス・ストレスを重点領域に位置づけ、イノベーションの創出や産業化の側面からのアプローチを中心に取組みを進めます。

生活習慣

- ・ メタボリスク指標の活用に基づく介入プログラムの開発により、生活習慣の改善を図ります。
- ・ マイME-BYOカルテのデータを活用し、医療機関と連携して重症化を予防します。

生活機能

- ・ ロコモ・フレイル対策サービスの利用を促進し、生活機能の維持を図ります。
- ・ ロボティクスと再生医療を促進し、低下した機能の回復を可能にします。

認知機能

- ・ 認知症に関する指標及び早期診断技術の開発・普及を通じて、進行抑制を図ります。
- ・ 再生医療・遺伝子治療など新たな治療方法の実用化を促進します。

メンタルヘルス・ストレス

- ・ 家庭や職場のストレスの状態の「見える化」を通じて、早期発見・介入を図ります。
- ・ コミュニケーション・ロボットなど様々な介入ツールの普及を促進します。

5 主要目標の設定（2025年）

達成を検証する主要目標については、県民の健康寿命の延伸に向け、個人の行動変容を促す未病指標（※）の構築・活用、県民の身近な課題解決に向けた重点領域での展開、地域経済の活性化に向けた新たな産業の創出の観点から、それぞれ設定します。

（※）未病指標：個人の現在の未病の状態や将来の疾病リスクを数値で見える化するもの

【主要目標①】未病指標の構築・活用

未病指標の利用者数：80万人

未病指標について、まずメタボリスクに関する指標から構築します（2018年度中）。

個人の行動変容を促進し、健康寿命の延伸につなげるため、未病指標の利用拡大を目指します。

その他の未病指標についても、順次構築・活用を図ります。

【主要目標②】重点領域での展開

【生活習慣領域】

糖尿病有病者数の減少：22万人台（2014年度比 Δ5%）

メタボ該当者及び予備群の減少率：25%以上（2008年度比）

行動変容の効果が最も期待されるのが、生活習慣領域であり、未病改善の取組み、未病指標の構築・活用、健診受診の促進により早期発見・早期介入・重症化予防が可能です。糖尿病は生活習慣領域の代表的疾病で、多くの県民の方にかかわるものであり、対策が健康寿命の延伸に直結します。

そこで、糖尿病有病者数を22万人台に減少させるとともに、メタボ該当者及び予備群の減少を目指します。

その他領域について、早期発見を促進する商品やサービスの利用拡大を目指します。

【その他領域：活用例】

- ・認知症の早期発見に向け血液検査など簡易検査の利用
 - ・生活機能低下の早期発見に向け簡易身体機能測定の利用
 - ・メンタルヘルス・ストレスの早期発見に向け新検査機器の利用
- 利用者数：計40万人

【主要目標③】新たな産業の創出

未病産業及び再生医療等関連産業の県内市場規模 2,500億円

本県の強みを生かし、健康寿命の延伸を支えるとともに、それを地域経済の活性化につなげるため、神奈川発の新たな産業である「未病産業」「再生医療等関連産業」の創出・拡大を進めます。

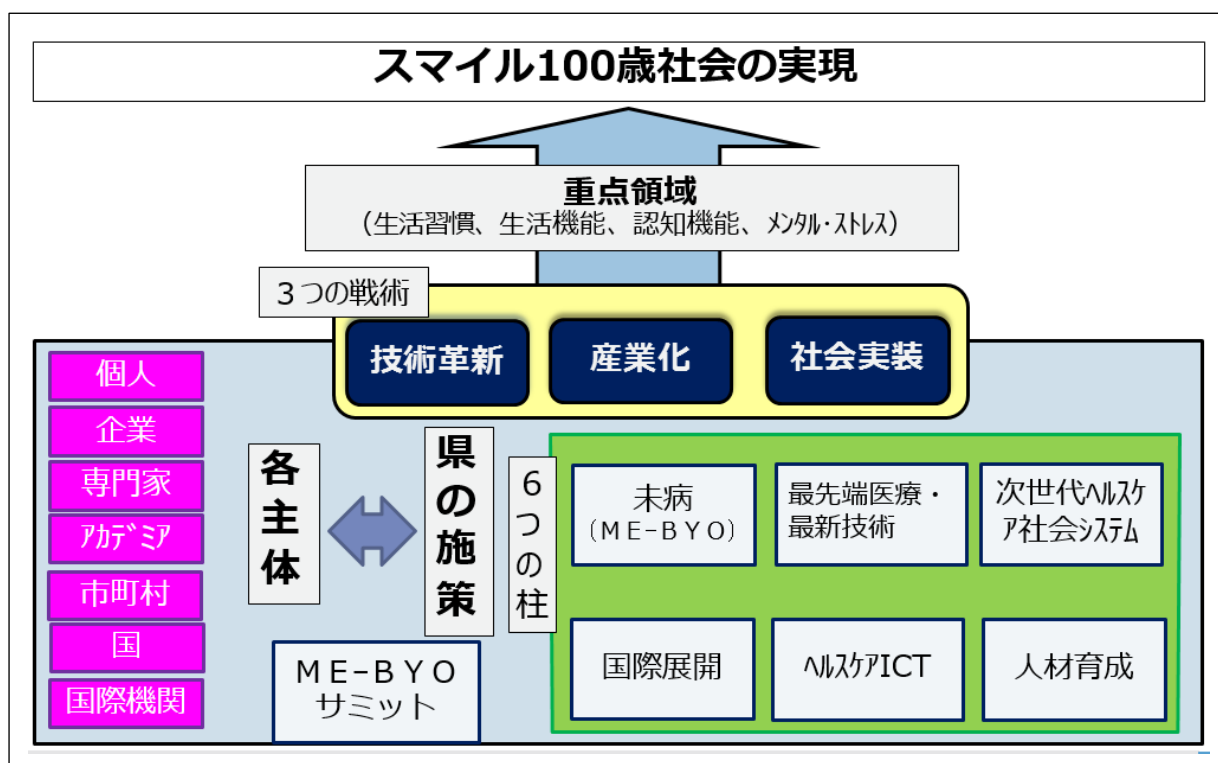
6 具体的な取組み

「6つの柱の取組み」と「各主体に対する取組みの強化」

4つの重点領域でのイノベーションの創出に向けて、県は、3つの戦術に基づき、6つの柱で横断的に取組みを進め、個人の行動変容を促進し、健康寿命の延伸を図っていきます。

なお、取組みの進捗状況を「見える化」するため、それぞれ中間目標（2020年）も設定します。

また、各主体（個人、企業、専門家、アカデミア、市町村、国、国際機関など）に対して、連携強化に向けた取組みを進めていきます。



【6つの柱の取組み】

柱	主な取組み
(1) 未病 (ME-BYO)	<ul style="list-style-type: none"> エビデンスに基づいた未病指標を県民が活用し、主体的な未病改善に向けた取組みを行うため、健康や未病に関する知識の普及を図り、ライフスタイルの見直しを促進します。 県民の行動変容に向けた選択肢を増やすため、様々な分野の企業が参加する未病産業研究会を軸に、未病改善のための商品やサービスの普及・拡大を図ります。
中間目標 (2020年)	<ul style="list-style-type: none"> メタボリスクの改善に係る未病指標の構築・活用促進 県民の健康リテラシーの向上：未病の認知度 80% 未病産業研究会を通じた未病産業関連商品の事業化：100件

柱	主な取組み
(2) 最先端医療・最新技術	<ul style="list-style-type: none"> 最先端の医療や早期発見・早期診断技術をいち早く県民に届けるため、研究開発の支援と最新技術の市場化の促進とともに、県内における関連産業の集積促進を図ります。
中間目標（2020年）	<ul style="list-style-type: none"> 全県的なイノベーション・エコシステムの形成 革新的医薬品、再生医療等製品、最先端医療機器の薬事申請・届出等：15件 最先端医療関連ベンチャー企業の県内集積：50社
(3) 次世代ヘルスケア社会システム	<ul style="list-style-type: none"> 県民の主体的な未病改善を後押しするため、特別な負担感を感じることなく、普段の生活の中で取り組むことができるよう、個人の選択と行動を行政や企業等が支える仕組みづくりを進めます。
中間目標（2020年）	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川ME-BYOリビングラボの全県展開：実証件数100件、参加人数10,000人(共に2017年からの累計) CHO構想(健康経営)推進事業所：登録事業所数1,000社
(4) 国際展開	<ul style="list-style-type: none"> 海外とのネットワークを活用し、県内企業等の国際展開を支援するとともに、海外の先進的な取組みの県内への早期提供を図ります。 未病コンセプトの発信、新たな社会システムの構築、人材の育成などについてWHOと幅広い連携を図ります。
中間目標（2020年）	<ul style="list-style-type: none"> 県内企業等がMOU（覚書）締結先の大学等と共同研究・開発等を行った件数：30件 各国政府、WHO等の発表事項に県政策(未病等)が反映された回数:20件
(5) ヘルスケアICT	<ul style="list-style-type: none"> マイME-BYOカルテを普及させるとともに、蓄積されたデータなどを、個人が日々の生活の中で未病改善に活用できる仕組みの構築に取り組めます。
中間目標（2020年）	<ul style="list-style-type: none"> マイME-BYOカルテ利用者数：100万人
(6) 人材育成 (ヘルスイノベーションスクール※)	<ul style="list-style-type: none"> 県民の健康寿命の延伸に寄与するため、新たな技術や社会システムの変革を担う人材の育成を進めます。 ヘルスイノベーションスクールがシンクタンクとして県施策について学術的な研究を進め、県の健康医療施策への反映につながるような提言を実施します。
中間目標（2020年）	<ul style="list-style-type: none"> 県民などを対象とした公開講座等を実施：受講者数1,000人 学術雑誌・専門誌での積極的な論文発表等の推進：学術論文、著書及びその他の著作の件数150件 研究成果を通じた県施策への反映につながるような提言を実施 国内外の大学や研究機関、企業と連携し、教育・研究の質的向上につながる共同研究や研究者間の相互交流等を実施

※ヘルスイノベーションスクール

保健医療分野における社会システムや技術の革新を起こすことができるイノベーション人材を養成することを目的とした、神奈川県立保健福祉大学に開設する予定の大学院研究科。

(2019年度に川崎市殿町地区に開設)

【各主体に対する取組みの強化】

(1) 個人

役割	健康に関するリテラシーの向上と主体的な未病改善の実践
県の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村との連携を通じ、健康長寿社会に必要となる健康リテラシーの向上を推進 ・ マイME-BYOカルテの普及や未病指標の提供を通じ、個人の主体的な未病改善を支援することで行動変容を促進

(2) 企業

役割	商品・サービスの質の向上と健康経営の実践
県の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産学公連携やビジネスマッチングの取組みなどにより、新たな商品・サービス開発を促進 ・ マイME-BYOカルテの従業員の健康づくりへの活用など、企業の健康経営を支援

(3) 専門家(医療関係者等)

役割	専門的知識で個人をサポート
県の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未病改善に関する地域や職域の課題解決に専門家の知識や経験を活用し、個人の行動変容につなげるための枠組みづくり

(4) アカデミア

役割	イノベーションの創出と次世代の担い手づくり
県の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商品・サービスの機能・効果等を検証する実証フィールドの提供等により、研究の支援を行うとともに、革新的医薬品・医療機器の実用化や未病指標の構築等を推進 ・ ヘルスイノベーションスクールにおけるイノベーション人材の養成、リーダー人材の輩出

(5) 自治体(市町村)

役割	個人の未病改善をサポートする環境の整備
県の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未病指標の活用や未病改善行動へのインセンティブ提供等の健康づくりの取組みを後押しし、一体的に未病改善を推進 ・ 市町村の健康課題解決に向け、保健医療データの分析・評価や、企業との連携、未病関連商品・サービスの積極的な活用を促進

(6) 国

役割	次世代社会システムの創出
県の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続的な社会システムの構築に向け、制度改革の提案や新たなツールを提供 ・ 規制緩和の推進により、実証等に先駆的に取り組むことが出来る環境を整備

(7) 国際機関

役割	世界的に進む高齢化への対応と情報発信
県の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ MOU締結先との連携関係を活かし、ヘルスケア分野における企業の海外展開支援または先進的な技術等を持つ海外企業の県内進出等を支援 ・ WHO等国际的な枠組みを活用し未病指標を構築

【参考】SDGs

SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）は、2015年9月に国連で採択されたアジェンダです。2030年の世界を描き、それに向けて、貧困、飢餓、健康福祉、エネルギー、気候変動など17のゴール（目標）と169のターゲットを掲げ、世界のすべての国や民間セクターに、このアジェンダに沿った行動を求めています。

SDGsは、脆弱な立場にある女性や子ども、障がい者、高齢者を含め、あらゆる人の生命や生活を守る多様性と包摂性のある世界の実現に向けて、様々な主体が目標・ビジョンを共有し、環境、経済、社会の広範な課題に対して統合的な取組みを進めることを目指しています。

県では、県民の「いのち」を輝かせる神奈川を実現するために、総合計画「かながわグランドデザイン」に基づく取組みを進めています。いのちが輝くためには、医療が充実しているだけでなく、環境、エネルギー、農業、食をはじめとして、生活の全てにわたって安全が確保され、それらを持続可能な形で維持していくことが必要です。これは、SDGsの理念と軌を一にするものです。

ヘルスケア・ニューフロンティアは、総合計画に盛り込まれた戦略の一つとして、超高齢社会を乗り越える持続可能な社会のモデルを神奈川から示していくことを目指し、海外とも連携を図りながら統合的な施策を推進しており、SDGsとも理念を共有しています。

今後、高齢化が世界的課題となる中で、SDGsの理念に沿った取組みを進めることで、県民生活をめぐる課題へしっかりと対応していきます。

＜いのち輝く神奈川は、SDGsと同じ発想＞

いのち輝く神奈川



持続可能な開発目標(SDGs)



※SDGsの17の目標

①貧困をなくそう、②飢餓をゼロに、③すべての人に健康と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑤ジェンダー平等を実現しよう、⑥安全な水とトイレを世界中に、⑦エネルギーをみんなに・そしてクリーンに、⑧働きがいも経済成長も、⑨産業と技術革新の基盤をつくろう、⑩人や国の不平等をなくそう、⑪住み続けられるまちづくりを、⑫つくる責任・つかう責任、⑬気候変動に具体的な対策を、⑭海の豊かさを守ろう、⑮陸の豊かさも守ろう、⑯平和と公正をすべての人に、⑰パートナーシップで目標を達成しよう